

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

福山市立中央中学校区	校番49	福山市立桜丘小学校
最終更新日		2026年(令和8年)1月30日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
--

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。 ・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き、子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいております、引き続き努力してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。 ○小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。 ●子どもたちが他者と協働して問題解決する力を付けていく必要がある ●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。 	<p>育成する力 資質・能力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【学びに向かう力】</p> <p>【課題発見・解決力】</p> <p>【自己肯定感】</p> <p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校区合同で実施する授業研究 2 生徒会、児童会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施 3 校区校長会・校区教頭会・校区各主任会等を通しての連携
--	--	---	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>自ら未来を切り拓き、たくましく生きる力をもった児童の育成</p>	<p>育成する力 資質・能力</p> <p>めざす子ども像</p> <p>低</p> <p>高</p>	<p>【学びに向かう力】</p> <p>【課題発見・解決力】</p> <p>【自己肯定感】</p> <p>A 目標を決め、自分のがんばりを振り返りながらねばり強く取り組む。</p> <p>B 自分の疑問・関心から課題を見つけ、友達と協働しながら工夫して解決に取り組む。</p> <p>C 自分と友達の良さや頑張りを知り、良さを伸ばそうとする。</p> <p>A 目標達成に向けて具体的に・継続的に取り組み、次の目標につなげる。</p> <p>B 自ら「問い」を見つけ、工夫して課題解決に取り組み、新しい学びにつなげる。</p> <p>C 自他の良さや頑張りに学び、自己の向上をめざして前向きに努力する。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>みんなで 学びをふかめる 心をそだてる 体をきたえる</p>	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p> <p>めざす授業の姿</p>	<p>伝え合い、学び合う児童の育成 ～対話型授業を通して深い学びを獲得する～</p> <p>一人一人が自分の考えをもち、対話を通して学びを深める</p> <p>効果的な対話場面の設定によって、児童が課題を見つけ、「教科の見方・考え方」を働かせながら、自ら学びを深めようとする事ができる授業</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と対話しながら考えを深めたいと感じる児童が増えている。 ●学習をやり切ることができない児童もあり、基礎学力の定着に課題がある学年もある。 ●与えられた課題に取り組むことはできるが、自分から課題を見つけたり工夫して解決したりすることには課題がある。 ●自分の考えや思いを相手に分かりやすく表現することに課題がある。 ●自己肯定感や自己有用感が低い傾向にある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な問題解決型の授業は定着している。 ○児童は対話活動を通して学びを深めることを意識している。 ●児童自ら課題発見し、協働の学びによって解決する学びづくりの研究を継続する必要がある。 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 桜丘小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							目標に係る取組状況	加え評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加え評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	主体的に学ぶ児童を育成する。	★	継続	自分の考えをもとに対話を通して考えを深める学び方の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 対話による学びの深まりをねらい、根拠を明確にした表現力を育成する。 授業の中で、児童の主体的な対話場面を設定し、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを深める授業にするために、協動的な対話を通して、表現できる児童を80%以上にする。(児童アンケート) 対話を通して、根拠を明確にして表現できる児童を80%以上にする。(発言・説明等) 	<ul style="list-style-type: none"> 協動的対話を通して、自分の考えを明確にし、表現できる児童が増加した。(81.3%) 児童の主体的な対話場面を設定し、根拠を明確にして表現できるように取り組んだ。(89.5%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や相違点を見つけるなど、より自分の考えを深めるための対話の視点を意識づける。 全体の場で、対話を通して学びを深めるための問い直しや児童の発言をつなく授業展開を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や相違点に着目したことで協動的対話を通して学びを深めることができた。(84.5%) 授業展開を工夫し児童の発言を問い返したりすることで考えを深められるようにした。根拠を明確にして表現できるように継続して取り組む必要がある。(85.8%) 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 根拠の明確化と協動的対話の取組を継続し、相手意識をもった表現力の育成を図る。 対話を通して学びを深める授業づくりと互いに授業を見合うことで、授業力の向上を図る。
2	互いの良さから学び合い、自己の成長につなげる児童を育成する。		継続	互いの良さを見つけ自分の良さを再発見したり自分に活かそうしたりする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自他共に互いの良さを見つけ合い、掲示物「ありがとうの木」をもとに感謝の気持ちを伝え合う。 自分のがんばりや成長をふりかえりカードに書き、可視化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に感謝の気持ちを表すために、感謝のメッセージを書き、その内容を活動月ごとに掲示する。(成果物) 学期始めに個々に設定するめあてを毎月振り返り、成長したと感じる児童を80%以上にする。(児童アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を通して、カードに感謝の気持ちを80.9%の児童が書き、活動月ごとに校内の「ありがとうの木」に掲示した。(成果物4枚) めあてに対して毎月振り返ることを通じて、成長したと感じる児童の育成に努めた。(89.8%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童集会や委員会の放送では、行事のめあてを基に啓発を行うとともに、カードの紹介を行う。 掲示することで互いのがんばりを認め合える場面を設定し、達成した喜びをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内放送で啓発することで、カードに感謝の気持ちを92.3%の児童が進んで書き、その都度校内の「ありがとうの木」に掲示した。(成果物13枚) 帰りの会などで機を逃さず、よいところを交流することで、成長を感じることができた児童が増えた。(94.2%) 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> メッセージカードを活用しながら、自他共に良さを見つけ合い、可視化する取組を継続する。 がんばっている様子を放送等で紹介する機会を設け、友達のがんばりを意識できるようにする。
2	自己の課題を知り、改善に向けて主体的に取り組む児童を育成する。		継続	自分の体力課題を発見し、解決に向けて積極的に取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を設定し、運動内容を選び、主体的に取り組めるようにする。 運動委員会の主体的な活動として、体育朝会や運動遊びを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業初めに、自分達で内容を選んだり決めたりしたサーキット運動を行う児童を88%以上にする。(職員アンケート) 運動することを楽しむ児童を93%以上にする。(児童アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> 主運動につながるサーキット運動や場づくりの工夫により自己課題に応じた運動を行うようになった。(83.0%) 体育朝会を毎月実施し、多様な運動体験機会を設けたり、運動の意義を指導したりした。(95.5%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 体育館に計時や測定器具を準備し、屋内でもサーキット運動ができるようにする。 体育科の授業において、音楽に合わせて運動したり、ペアで運動したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育朝会において、サーキット運動の手法を示したり、体力課題との関係を説明し、自己課題に応じた運動を行ったりした。(91.3%) 体育科の授業において、ペア運動や運動遊びを取り入れた。(96.8%) 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、がんばりカードを活用し、内容を選ぶことや運動の意義を意識できるようにする。 体育朝会において、長縄やドッジボール等の異学年交流遊びを運動委員会主体で行う。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。